

課題名：県育成モモ新品种の高品質安定生産技術の開発（令6～10）

内容：岡山県は多様なオリジナルモモ品種を育成しており、平成28年に品種登録された「白皇®（岡山 PEH7 号）」や「白露®（岡山 PEH8 号）」に加えて、令和4年度には「岡山 PEH10 号」及び「岡山 PEH11 号」の品種登録を出願しました。しかし、「白皇」は収穫適期の判断が難しく、「白露」では低温年に結実不足を生じることが課題です。また、「岡山 PEH10 号」、「岡山 PEH11 号」については特性や栽培技術を十分に検討できていません。そこで、収量安定化のための栽培技術の開発や、県内のモモ主要産地での適応試験を通じて、高品質な果実を安定的に生産できる栽培技術の確立を目指します。

「岡山PEH10号」「岡山PEH11号」	「白皇」	「白露」
	 <p>裂皮や縫合線裂果が多い</p>	 <p>課題： 開花期の低温による結実不足 ↓ 霜害対策必要</p>
<p>課題： 現地での適応性試験を開始 ↓ 収穫適期や、最適な果実袋について検討が必要</p>	 <p>強遮光二重袋 慣行二重袋</p> <p>課題： 強遮光二重袋は有効 ↓ 収穫判断が困難</p>	<p>花卉露出始期 満開期～開花終期</p>  <p>二つの開花ステージで低温耐性がやや劣る</p>
<p>得られた成果の普及により、「岡山白桃」のブランド力強化と儲かる農業を実現できる</p>		

[果樹研究室HPへ](#)

[農業研究所HPへ](#)